

技術士総合技術監理部門  
受験対策

*PMP (☆虎) の「脳-how」*

*総監虎の巻シリーズ*

技術士総合技術監理部門の技術体系

*「総監択一問題ヒストグラム」*

2015年度版

上田 活裕 著

## はじめに

試験制度の改定で択一＋記述の合計での判定基準はなくなり、択一での足切が導入されます。  
 択一で確実に60%をとれる学習が必要となります。  
 そこで、このファイルを作成することにしました。

択一問題の過去問が青本の目次のどこから出題されているかを纏めてみました。  
 14年分ありますから、徐々に出題範囲が均等化されているという側面もありますが、  
 繰り返し出題されている箇所、過去出題されていない箇所があります。  
 択一問題対策で、どこが出題されているかを把握することで、学習の効率が上がればと思います。  
 学習を効率的にするには、出題されたところ、出題頻度の高い所を確実に学習することが重要です。  
 青本外の出題についても簡単にその範囲を纏めましたので参考してください。  
 青本外の出題に対する対策は、これと言ってありません！！

青本外出題が多いのは、情報管理と社会環境管理です。  
 情報管理では、新たな情報管理関連用語に対する出題です。  
 社会環境管理では、法規制を含む国際社会を含む動向に関する出題です。  
 また、人的資源管理法改正に関する出題があります。

しかし、これらに対し全て対応することは、ある意味不可能です。  
 ただ、社会動向、法改正などに意識していれば、ある程度は対応できるでしょう。

## 5つの管理 年度別 青本出題傾向

( )内は、「青本」に記載されていない選択肢のある出題数

年度	出題数	青本出題率	経済性管理	人的資源管理	情報管理	安全管理	社会環境管理	国際動向
2001(H13)年度	15(6)問	60.0%	3(2)問	2(1)問	3(2)問	3(0)問	3(1)問	1(0)問
2002(H14)年度	30(11)問	63.3%	5(2)問	5(0)問	6(4)問	6(2)問	7(2)問	1(1)問
2003(H15)年度	40(23)問	42.5%	8(4)問	8(2)問	8(7)問	8(5)問	8(5)問	0(0)問
2004(H16)年度	40(14)問	40.0%	9(3)問	8(1)問	9(4)問	5(3)問	8(3)問	1(0)問
2005(H17)年度	40(16)問	35.0%	8(2)問	8(3)問	8(6)問	7(1)問	8(4)問	1(0)問
2006(H18)年度	40(16)問	35.0%	8(2)問	8(3)問	8(7)問	7(1)問	8(3)問	1(0)問
2007(H19)年度	40(17)問	32.5%	9(3)問	8(1)問	8(5)問	7(1)問	8(7)問	1(0)問
2008(H20)年度	40(15)問	62.5%	6(0)問	8(2)問	8(5)問	9(4)問	8(4)問	1(0)問
2009(H21)年度	40(10)問	75.0%	8(1)問	8(1)問	8(3)問	8(2)問	8(3)問	0(0)問
2010(H22)年度	40(10)問	75.0%	8(2)問	8(2)問	8(4)問	8(3)問	8(5)問	0(0)問
2011(H23)年度	40(15)問	62.5%	8(2)問	8(4)問	8(4)問	8(2)問	8(3)問	0(0)問
2012(H24)年度	40(23)問	42.5%	8(2)問	8(4)問	8(7)問	8(3)問	8(7)問	0(0)問
2013(H25)年度	40(22)問	45.0%	8(3)問	8(3)問	8(7)問	8(2)問	8(7)問	0(0)問
2014(H26)年度	40(26)問	65.0%	8(0)問	8(4)問	8(4)問	8(1)問	8(5)問	0(0)問

## 出題形式

年度	出題数	①正しいものを選択	②誤ったものを選択	③正答数を問う	④穴埋め・組合せ	⑤計算問題	⑥順番並替え
2001(H13)年度	15問	11問	4問	1問	0問	0問	0問
2002(H14)年度	30問	15問	14問	1問	0問	0問	0問
2003(H15)年度	40問	15問	20問	2問	3問	0問	0問
2004(H16)年度	40問	11問	22問	2問	0問	2問	0問
2005(H17)年度	40問	13問	25問	0問	0問	2問	0問
2006(H18)年度	40問	5問	28問	2問	2問	3問(含む)	0問
2007(H19)年度	40問	10問	18問	4問	2問	6問	0問
2008(H20)年度	40問	3問	17問	10問	6問	4問	0問
2009(H21)年度	40問	10問	15問	1問	2問	2問	0問
2010(H22)年度	40問	4問	15問	14問	6問	1問	0問
2011(H23)年度	40問	7問	12問	9問	9問	3問	0問
2012(H24)年度	40問	6問	13問	14問	4問	2問	1問
2013(H25)年度	40問	10問	16問	7問	4問	3問	0問
2014(H26)年度	40問	15問	10問	5問	6問	4問	0問

筆記試験の合否判定基準は、択一問題＋記述問題の得点が合わせて60%以上ですが  
 試験制度の変更で、マークシートの択一で60%以下だと、記述の採点はしてもらえなくなります。  
 従来のように、択一問題のできの悪さを記述問題で挽回することはできなくなります。

少なくとも、過去問を3回は繰り返し学習し、青本内の出題は90%正解できるようにしましょう！！

択一問題にどのように対応するかは、「総監虎の巻 択一問題対策」の『PMP(☆虎)の脳-How 択一問題編』をご覧ください。

択一問題対策としてお勧めは、

### 1)「総監虎の巻 択一問題対策」の分野別過去問にチャレンジする。

- 2001年度は全部で15問、2002年度は全部で30問、以降、各年度40問で各分野8問の出題となっています。
- 各分野、13年度で概ね100問あります。
- 択一問題の選択肢は5つが基本で、計算問題や組合せ問題、穴埋め問題などは除いて、5つの正誤問題と考えられます。ここで、単純計算(獲らぬ狸の皮算用)
- 5つの正誤問題と考えて、1問1分を目標にチャレンジする。
- 1日20分を択一問題対策に充てる。これで1日20問、1週間で5日確保できれば、100問消化できる計算になります。
- すなわち、分野別過去問100問を各分野1週間で終えることができます。
- 少なくとも過去問全て、3回はチャレンジしておきたいところです。

繰り返しますが、

**試験制度の変更で、マークシートの択一で60%以下だと、記述の採点はしてもらえなくなります。**

### 2)「総監虎の巻 青本徹底理解」の『総監キーワード集』を活用する。

- 総監キーワード集は、私が総監受験時に作成した資料を纏めなおしたものです。
  - 青本外の用語もかなりカバーしています。(その後の更新はしていませんが・・・)
  - この『総監キーワード集』をベースに択一問題を解いたら、マーキングしましょう！！
- 例えば、出題されたキーワードには、『総監キーワード集』の該当箇所のキーワードにアンダーラインを入れ、年度を記入する。具体的には、2005年度のフィージビリティの出題であれば、フィージビリティ<sup>⑤</sup>のようにマーキングします。フィージビリティの出題は、2010、2013年度も出題されていますので、フィージビリティ<sup>⑤⑩⑬</sup>のようになります。これで、出題されている箇所や出題履歴が判り、重要ポイントが把握できます。

### 3) 択一問題ヒストグラムを活用する。

- 択一問題での足切が行われる以上、自分の強みと弱みを確実に把握することが大切です。
  - このヒストグラムは青本内の出題は極力、5択に分けて記載し、正解できる選択肢と良く間違える選択肢が一覧できます。
  - この択一問題ヒストグラムにマーキングしましょう！！
- ここでは、繰り返しチャレンジした履歴を残します。  
すなわち、自分の良く間違える選択肢が一覧できます。  
より繰り返し学習し、記憶に留めておかないといけない箇所が把握できます。

こういった学習方法であっても、**択一問題60%正解が目標です！！**

総監合格を目指して頑張ってください！！！！

2014/09/24

by PMP(☆虎)

形式の凡例	正：正しい選択肢を選ぶ	正数：正しい選択肢の数を選ぶ
	誤：誤った選択肢を選ぶ	誤数：誤った選択肢の数を選ぶ
	組：正しい組合せを選ぶ	穴埋：穴埋めの正しいものを選ぶ
	計：計算問題	並替：並べ替えて正しいものを選ぶ

## 1. 総合技術監理の要求内容と技術体系

青本目次（該当ページ数）	出題キーワード	年度と形式
<b>1.1 総合技術監理に要求される機能</b> 2		
1) 総合技術監理が必要とされる背景 2		
2) 総合技術監理の範囲 2		
3) 総合技術監理に要求される能力とその養成 3		
4) 総合技術監理に必要とされるプロフェッショナルとしての倫理観と国際的視点 3		
5) 総合技術監理の要素技術としての総合管理技術 4		
6) 総合技術監理部門の技術士としての基本的要求事項 5		
1.1.1 技術士法 6		
1.1.2 技術者継続教育 6	(安) CPDの説明 ① AHP ② BCP ③ CPD ④ TQM ⑤ WTP	⑤-25 正
1.1.3 技術者倫理 8		
<b>1.2 総合技術監理の全体構成に関する基本方針</b> 9		
<b>1.3 総合技術監理における総合管理技術</b> 10		
1.3.1 総合管理技術としての総合的品質管理 11		
1.3.2 総合管理技術としての管理会計 12	(経) 割引現在価値の計算 (経) 割引現在価値の計算  (経) 企業会計に関する説明 ① 管理会計は原価集計内容を対外的に説明 ② 割引現在価値を適用することが多い ③ 財務諸表は企業会計原則に基づき作成 ④ 財務諸表には、貸借対照表、損益計算書 ⑤ 減価償却費は、内部留保される効果	⑤-2 計 ⑩-3 計  ⑩-6 誤
	(経) 割引現在価値の計算	⑭-3 計
1.3.3 総合管理技術としての意思決定論 13		
1.3.4 総合管理技術としてのリスクマネジメント 14	リスクマネジメントでの移転対策 ① すべてのリスクには、移転対策 ② 影響が小さくとも、発生確率の高いリスクには、移転対策 ③ 発生確率は低くとも、影響の大きなリスクには、移転対策 ④ 影響の大きなリスクには、低減対策よりも移転対策 ⑤ 経験したリスクには、移転対策  リスクマネジメントの説明 ① 最も基本的な要件は組織の整理 ② リスクマネジメントシステムは効率を基本として構築 ③ リスクマネジメントシステムは責任と権限の明確化が最も重要 ④ リスクマネジメントの有効性はトップより中間管理職のやる気	②-2 正       ②-6 正

## 2. 経済性管理

青本目次 (該当ページ数)	出題キーワード	年度と形式
概要 21	生産のPQCDSMの説明 ① P は、Production ② Q は、Quality ③ C は、Cost ④ D は、Delivery ⑤ S は、Service	⑤-1 誤
2.1 事業企画と事業計画 24		
2.1.1 フィージビリティ・スタディ 25	フィージビリティ・スタディの調査4項目 ① 事業フレームの具体化 ② 予備的調査と需要予測 ③ 予備的な設計・試作 ④ 総合生産計画の立案 ⑤ 事業の収支予測と資金調達の検討	⑤-5 誤
	フィージビリティ・スタディの項目 ① 事業内容の具体化 ② 予備的調査と予測 ③ 予備的な設計・試作 ④ 生産能力調整、需要平準化 ⑤ 収支予測と資金調達	⑩-1 誤
	フィージビリティ・スタディの説明 (ア) 総合生産計画の基本的な目的 (イ) フィージビリティ・スタディの調査内容 (ウ) フィージビリティ・スタディの調査内容 (エ) 総合生産計画を作成する際の課題 (オ) 総合生産計画の立案のステップ (カ) フィージビリティ・スタディの調査内容 (キ) 総合生産計画の基本的な目的	⑬-1 組
	(安)リスク管理に関する記載 ① 社会的受容は正負両面を考慮し社会が受け入れること ② リスクアセスメントの結果、リスクを保有もある ③ 設備導入や教育訓練による意識向上は、リスク回避の対策の1つ ④ カタストロフィー・バイアスは、巨大リスクにリスクの過大視が起こる ⑤ パーソン・バイアスは、リスクを過大過小に評価し、正確な認知を得られない	⑧-25 誤
2.1.2 総合生産計画 26	総合生産計画の説明 ① 生産計画の第1ステップ、大日程計画 ② 基本的な目的 ③ 雇用水準の安定化や在庫水準の適正化 ④ フィージビリティ・スタディ ⑤ 線形計画法などの手法	④-1 誤
	総合生産計画の調整項目 (ア)在庫水準調整 (イ)労働力水準変更 (ウ)納期遅延 (エ)外注対応 (オ)需要増大	⑦-1 誤数
	生産と調整の説明 ① APP ② MPS ③ MRP ④ ERP ⑤ CALS	⑧-5 誤
	総合生産計画に関する説明 (ア) 総合生産計画と大日程計画 (イ) 総合生産計画の基本的な目的 (ウ) 需要変動に対する対応 (エ) 生産能力調整 (オ) 需要平滑化	⑪-1 誤数

	(安)階層分析法の説明 ① 階層分析法 ② ハインリッヒの法則 ③ HAZOP ④ THERP ⑤ ジップの法則	③-31 正
	(安)階層分析法の説明 ① AHP ② BCP ③ CPD ④ TQM ⑤ WTP	⑤-25 正
	(経)問題解決の手法の説明 ① 階層化意思決定法の説明 ② 親和図と過程決定計画図の説明 ③ 過程決定計画図と特性要因図の説明 ④ デルファイ法とブレイン・ストーミング法の説明 ⑤ 集団情報構造化法とデルファイ法の説明	⑭-1 正

●青本外出題		
青本目次 (該当ページ数)	出題キーワード	年度と形式
品質管理・購買の在り方 —	外注ソフトウェアの品質を確保の在り方 ① ISO 登録業者 ② 実績のある業者 ③ 受け入れ検査の厳格化 ④ 同じ作業環境 ⑤ 製品の仕様と要求事項の明確化	①-10 正
設計変更 —	設計変更による予算超過に対してとるべき行動 ① プロジェクト中断 ② 顧客に泣き言 ③ 顧客と協議 ④ 節約指示 ⑤ 値引き交渉	①-11 正
品質管理、ISO —	標準化の在り方 ① 改善のための標準化 ② 文書化 ③ 教育・訓練 ④ 改定 ⑤ 繰り返される活動の標準化	②-8 誤
品質管理 —	検査の在り方 ① 経験豊富な人の検査 ② 厳重な検査 ③ 実績に基づく検査を簡略化 ④ 品質は工程で作ら込む ⑤ 検査実行者	②-9 誤
PL法(製造物責任法) 37	生産者が考慮すべき活動 ① 安全性評価 ② 警告表示や、取扱説明書 ③ リサイクルし易くするための材料名の表示 ④ 製品安全にかかわる解析 ⑤ 環境や使われ方の検討・予測	③-3 誤
生産システム 44	生産システム FA、OA の説明 ① FA は生産の多様化、生産組織の変化に対応 OA は仕事の変化、意思決定の変化に対応 ② FA は工業生産の自動化・無人化を目的 ③ FA は有形の物を OA は情報を対象 ④ FA は管理部門に OA は生産部門に適用 ⑤ FA のハードウェアは NC 工作機、CAD/CAM など OA のハードウェアは画像入力装置、ワープロなど	③-5 誤
品質管理 214	ISO 9000 における品質の定義 ① 規格との適合の程度	③-6 正

### 3. 人的資源管理

青本目次 (該当ページ数)	出題キーワード	年度と形式
概要 67		
3.1 人の行動と組織 69	人的資源管理に関する理論の説明 ① PM 理論 ② 人間関係論 ③ テイラーの科学的管理法 ④ マグレガーの Y 理論 ⑤ 行動科学的アプローチ	④-9 正
3.1.1 人の行動モデルとインセンティブ 70	人的資源管理に関する記載 ① 組織形態は分業関係と部門化、権限関係、伝達と協議の関係、公式化に関して決定 ② リーダーは、仕組みや文化をつくることは関与しない ③ 人的資源開発は、教育訓練より仕事を通じた能力育成が有効 ④ 人事考課は客観性と平等性を重視 ⑤ インセンティブは、労働意欲や達成意欲、協調意欲	②-27 正
	インセンティブの説明 ① 物質インセンティブ ② 評価インセンティブ ③ 人的インセンティブ ④ 排他的インセンティブ ⑤ 自己実現インセンティブ	②-29 誤
	インセンティブの説明 ① 物質的インセンティブ ② 評価的インセンティブ ③ 人的インセンティブ ④ 理念的インセンティブ ⑤ 自己実現インセンティブ	③-16 誤
	行動科学的理論 ① PM 理論 ② 人間関係論 ③ テイラーの科学的管理法 ④ マグレガーの Y 理論 ⑤ 行動科学的アプローチ	④-9 正
	マズローの人間の欲求5段階説 ① 物質的欲求 ② 安定要求 ③ 連帯要求 ④ 周囲からの尊敬欲求 ⑤ 自己実現欲求	⑤-9 正
	5つのインセンティブの説明 ア. 物質的インセンティブ イ. 評価的インセンティブ ウ. 人的インセンティブ エ. 理念的インセンティブ オ. 自己実現インセンティブ	⑦-9 組
	5つのインセンティブの説明 (ア) 物質的インセンティブ (イ) 評価的インセンティブ (ウ) 人的インセンティブ (エ) 理念的インセンティブ (オ) 自己実現インセンティブ	⑧-9 誤数
	マグレガー—・マズローの理論の説明 ① マグレガーの X 理論、Y 理論 ② マズローの人間の欲求には5段階 ③ テイラーの科学的管理法 ④ 三隅の PM 理論 ⑤ ハーシーとブランチャードの SL 理論 (シチュエーション・リーダーシップ理論)	⑨-9 誤
	人の行動モデルとインセンティブの説明	⑩-9 正

	<ul style="list-style-type: none"> <li>② 成果偏重の活動になる恐れ</li> <li>③ 固定的な編成で長期活動</li> <li>④ 動機付けや自己実現、専門家の支援</li> <li>⑤ 発表会での評価方法</li> </ul>	
	QCサークルに関する記述 <ul style="list-style-type: none"> <li>① QCサークル活動の基本理念</li> <li>② QCサークル活動は自主的な活動</li> <li>③ QCサークル活動を行う上での基本理念</li> <li>④ QCサークル活動での外部の専門家による支援</li> <li>⑤ QCサークル活動とTQM、ZD運動などの小集団活動</li> </ul>	⑭-12 正

●青本外出題		
青本目次 (該当ページ数)	出題キーワード	年度と形式
人的資源管理の記載 89	人的資源管理の記載 <ul style="list-style-type: none"> <li>① テーラーリズム</li> <li>② 教育訓練の主な方法 オンザジョブ、オフザジョブ、アプレンティス</li> <li>③ 日本の労働組合の主な特徴</li> <li>④ 企業の組織形態</li> <li>⑤ ホーソン実験</li> </ul>	①-14 正
就業者の形態 81	就業形態 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 完全失業者</li> <li>② 雇用者</li> <li>③ 自発的失業者</li> <li>④ 求職意欲喪失者</li> <li>⑤ 非自発的失業者</li> </ul>	③-15 穴埋
人的資源管理に関する理論 70	テイラーの科学的管理法の説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>① PM 理論</li> <li>② 人間関係論</li> <li>③ テイラーの科学的管理法</li> <li>④ マグレガーのY理論</li> <li>⑤ 行動科学的アプローチ</li> </ul>	④-9 正
知的財産権 100	(情)職務上の発明制度 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 当該企業の業務範囲</li> <li>② 本人の当該企業における職務</li> <li>③ 当該企業の業務命令</li> <li>④ 社内規定、相当の対価の支払い</li> <li>⑤ 企業の実施権</li> </ul>	⑤-14 誤
労働者災害補償保険制法 —	通勤災害に関する出題 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 通勤経路上の事故</li> <li>② 電車事故のため迂回途中の事故</li> <li>③ 通勤途上、診察途中、通勤経路上での事故</li> <li>④ 飲酒後、通勤経路での事故</li> <li>⑤ 上司指示を受けたイベント会場への途中事故</li> </ul>	⑦-13 誤
労働関係法 —	パート労働タイム法に関する説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 1週間当たりの労働時間</li> <li>(イ) 労働基準法の適用</li> <li>(ウ) 有給休暇</li> <li>(エ) 退職手当</li> <li>(オ) 失業保険、労災保険</li> </ul>	⑧-15 正数
労働関係法 75	労働者派遣法に関する説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>(ア) 労働者派遣契約</li> <li>(イ) 通勤手当</li> <li>(ウ) 指揮命令</li> <li>(エ) 非直用に区分</li> </ul>	⑧-16 組
人の行動(科学的管理法) 70	マグレガー・マズローの理論の説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>① マグレガーのX理論、Y理論</li> <li>② マズローの人間の欲求には5段階</li> <li>③ テーラーの科学的管理法</li> <li>④ 三隅のPM理論</li> <li>⑤ ハーシーとブランチャードのSL理論 (シチュエーションル・リーダーシップ理論)</li> </ul>	⑨-9 誤



## 4. 情報管理

青本目次 (該当ページ数)	出題キーワード	年度と形式
概要 92		
4.1 通常業務における情報管理 94	情報管理に関する説明 (ア) 管理すべき情報が体系的に整理 (イ) 戦略的に情報公開を活用 (ウ) 公開情報は、説明責任、報告、PR情報、緊急時の広報など (エ) 非公開情報は、情報セキュリティに留意 (オ) 情報開示基準は、あらかじめ検討する	⑩-17 誤数
4.1.1 組織における情報の分類 95	情報管理に関する記載 (ア) データマイニング (イ) 総所有コスト(Total Cost of Ownership; TCO) (ウ) ナレッジ・マネジメントでの形式知を活用 (エ) 情報の職能別分類	⑩-21 正数
4.1.2 組織における意思決定と情報 96	情報アカウントビリティの説明 ① 会計処理 ② 決算報告 ③ 計数可能性 ④ 情報公開 ⑤ 説明責任	①-7 正
	情報開示・情報公開の在り方 ① 情報内容の誤りや不足で、組織が不利益を被る可能性 ② 緊急時の情報開示で、社会的信頼性が失われることもある ③ 開示基準は求められた時点で対処する ④ 顧客情報は、原則、外部に漏らしてはいけない ⑤ 説明責任として積極的に情報開示を実施	⑥-21 誤
	情報管理に関する説明 (ア) 意思決定者に届けるため、体系的整理が重要 (イ) 組織外に戦略的に情報公開を活用 (ウ) 公開情報は説明責任、報告、広告・宣伝、PR情報、緊急時の広報など (エ) 非公開情報は、技術情報や顧客情報など (オ) 情報開示基準は、組織の重要な意思決定問題	⑩-17 誤数
	情報管理に関する記載 (ア) データマイニング (イ) 総所有コスト(Total Cost of Ownership; TCO) (ウ) ナレッジ・マネジメントでの形式知を活用 (エ) 情報の職能別分類	⑩-21 正数
	情報公開に関する行動の在り方 ① 組織の開示情報は、説明責任の活動報告と広告・宣伝情報 ② 財務諸表は説明責任を果たす開示情報 ③ 環境報告書は社会的説明責任を果たす情報 ④ 技術情報は製品・サービスのための開示情報 ⑤ 不祥事などの緊急時の開示基準の検討の必要性	⑬-22 誤
	情報管理に関する記載 (ア) データマイニング (イ) 総所有コスト(Total Cost of Ownership; TCO) (ウ) ナレッジ・マネジメントでの形式知を活用 (エ) 情報の職能別分類	⑩-21 正数
4.1.3 情報システム 98	情報システムに関する説明 ① オープンシステムでソフトウェアの導入費用は増加傾向 ② 情報システムでは改良や変更、ユーザ教育も考慮 ③ リスク管理や情報セキュリティ対策が必要 ④ 委託サービスと自社の業務は、契約に注意 ⑤ ランニングコストまで含めた総所有コストを考慮	⑪-20 誤
	災害時における情報システムの業務継続計画 ① 復旧しやすいものから順に復旧させる ② 災害時でも情報システムのセキュリティ水準を維持 ③ 非現実的な被害も計画策定の対象 ④ バックアップデータは情報システムと同じ建物に置く	⑫-23 正

4.5.1 セキュリティポリシー	122	情報セキュリティの考え方 ① 技術的、人的、組織的、制度的、物理的な側面なども対策 ② セキュリティの3要素、機密性、保全性、可用性を維持 ③ 情報システム部門以外の他部門は関与する必要はない ④ 情報セキュリティポリシーは、情報システム部門の強い意思 ⑤ 情報(個人情報・機密情報・組織情報等)のみの保護を対象	⑥-18 正
		情報セキュリティに関する説明(青本外有) (ア) 情報リスクには、偶発的、人為的なものがある (イ) ソーシャルハッキングは、セキュリティソフトで対処可能 (ウ) 情報セキュリティポリシーの基本方針 (エ) スパイウェア (オ) データの暗号化で情報漏えいは起こらない	⑧-24 誤数
		情報セキュリティポリシーの基本方針 (ア) セキュリティポリシーの策定には、組織の長が関与 (イ) セキュリティポリシーは、コンピュータ管理外対象外 (ウ) セキュリティポリシーは実現困難なもの (エ) セキュリティ事故対処方法から検討すべき (オ) 既成のもの真似でなく自ら策定する	⑨-17 誤数
		情報セキュリティポリシーの基本方針 (ア) 情報セキュリティに関する活動基準 (イ) セキュリティ対策は組織全体として取り組む (ウ) セキュリティ対策は、レベルとコストなどで判断 (エ) 情報リスクは真似しても適したものとは限らない (オ) セキュリティポリシーを基に行動基準やマニュアルの作成、ハード対策	⑩-23 誤数
		情報セキュリティ対策に関する行動 (ア) 組織の長が関与し情報セキュリティ活動基準を策定 (イ) パスワード漏洩などソーシャル・エンジニアリングに注意 (ウ) 不審なメールに対し配信不要の返信 (エ) 拾ったUSBメモリを職場のパソコンに接続し、所有者を確認	⑫-21 正数
4.5.2 情報リスク	123	情報リスクに関する説明 (ア) 情報リスクには、偶発的、人為的なものがある (イ) ソーシャルハッキングは、セキュリティソフトで対処可能 (ウ) 情報セキュリティポリシーの基本方針 (エ) スパイウェア (オ) データの暗号化で情報漏えいは起こらない	⑧-24 誤数
		情報漏えい発生時の対応ポイント (ア) 机上の整理は、重要情報の漏洩対策。 (イ) 憶測や類推による判断や発言防止ため情報を1か所に集め外部に対する窓口を1本化 (ウ) メールアドレスの誤送信は、誤送信先にお詫びと送付情報の削除をお願い (エ) 匿名掲示板の悪評を管理者に削除の申し入れ (オ) 個人情報漏洩に対し、お詫びと被害防止の注意喚起	⑬-23 正数
4.5.3 人為的な情報リスク	125	情報処理関連の用語 ア. ボット(Bot) イ. VoIP エ. イン트라ネット オ. スпамメール	⑦-23 誤数
4.5.4 情報リスクの把握と対策	126		

<b>●青本外出題</b>			
青本目次 (該当ページ数)		出題キーワード	年度と形式
情報管理用語	118	情報用語 ① IT:Information Technology ② EC:Electronic Commerce ③ FTTH:Fiber to the Home ④ ADSL:Asynchronous Digital Subscriber Line ⑤ B2C:Branch and Bound Computing	②-19 誤
情報管理用語	118	コンピューター関連用語 ① CAD:Computer Aided Design ② CAM:Computer Aided Manufacturing	②-20 誤

## 5. 安全管理

青本目次 (該当ページ数)	出題キーワード	年度と形式
概要 129		
5.1 リスク管理 131	(情) 情報資産のリスク分析・評価のプロセス (ア) 情報資産を洗い出す対象範囲を特定 (イ) 保護すべき重要な情報資産を特定 (ウ) 実施対策に改善の必要性があるか判断 (エ) リストの情報資産が受容可能か否かを判断。 (オ) 脆弱性を特定 (カ) 脅威を特定 (キ) 機密性、完全性及、可用性の喪失が及ぼす影響を特定	①-24 組
	ハザードの概念 ① 危険性 ② 潜在的危険要因 ③ 被害の大きさ ④ 発生確率の大きなリスク ⑤ 発生確率の小さなリスク	①-2 正
	リスク対策の4種類 ① 保有 ② 低減 ③ 監視 ④ 移転 ⑤ 回避	③-29 誤
	リスクアセスメント活動の順序 (ア) リスクが顕在化する確率と被害規模の推定 (イ) リスクマトリクス等によるリスクの評価 (ウ) 事故等不都合事象へ進展するシナリオ分析	⑩-25 正
	情報資産リスクの分詳細リスク分析アプローチの順 (ア) 情報資産を洗い出す対象範囲を特定 (イ) 保護すべき重要情報資産を特定しリストアップ (ウ) 実施対策に改善の必要性があるかを判断 (エ) 管理策のリスクレベル算定し、リスクが受容可能か判断 (オ) 各情報資産に対し脆弱性を特定 (カ) 各情報資産に対し脅威を特定 (キ) 各情報資産に対し機密性、完全性、可用性喪失の影響を特定	①①-24 組
	リスク解析の説明 (ア) リスク管理は組織で周知・共有することが重要 (イ) リスク特定はハザードを特定しシナリオ分析でリスク見積りを行う (ウ) リスク=発生確率×被害規模、リスク値が同じであれば、同等のリスク (エ) リスク対応は保有、低減、回避、移転があり、リスク回避として保険がある (オ) バイアスによるリスク認知の検討が必要	①①-25 正数
5.1.1 リスク管理と危機管理 133	リスクに関する用語の説明 ① リスク(risk)と危険(danger)は同じ意味。 ② リスク値が同じならリスクの取り扱いとは全く同じ ③ リスクは危険の大きさと発生確率の要素を持つ ④ ハイリスク、ハイリターンのように好ましい側面がある ⑤ リスクを取ったら必ず悪い影響や結果がでる	①-1 正
	危機管理の在り方 ① 危機管理を広義のリスク管理に含める考え方もある ② 責任者には、短期間における強いリーダーシップが必要 ③ トップの最悪事態に備える意識が危機管理の基本 ④ 自然災害の損害は、企業の危機管理の対象外 ⑤ 危機時の情報伝達では、通常とは異なる伝達経路も必要	⑦-29 誤
	リスク管理と危機管理の対比の説明 ① 危機管理の目的は、不測事態に対応 ② 事故や危機的な状況発生後のリーダーシップが重要 ③ 危機発生時の対応業務は、定常的なタスクフォースで実施 ④ 危機管理の考え方や手法は、史実にも多数存在 ⑤ 危機管理マニュアルは、緊急時対応を円滑に実施するために策定	⑬-25 誤

		(エ) 相容れない矛盾する目標 (オ) 組織	
5.5.5 システム信頼度解析	169	(経)システムの信頼度の計算 直列システムの信頼度の計算 システムの信頼性の計算 システムの信頼性の計算 システムの信頼性の計算	⑧-7 計 ④-32 計 ⑦-32 計 ⑪-30 計 ⑬-27 計

●青本外出題			
青本目次 (該当ページ数)		出題キーワード	年度と形式
安全分析手法	160	オペラビリティ手法の説明 ① イベントツリー分析 ② フォールトツリー分析 ③ HAZOP 手法 ④ FMEA 手法 ⑤ オペラビリティ手法	①-3 正
		オペラビリティ手法の説明 ① イベントツリー手法 ② フォールトツリー手法 ③ ハズップ手法 ④ FMEA 手法 ⑤ オペラビリティ手法	②-3 正
リスクマネジメント	14	リスクマネジメントの説明 ①最も基本的な要件は組織の整理 ② リスクマネジメントシステムは効率を基本として構築 ③ リスクマネジメントシステムは責任と権限の明確化が最も重要 ④ リスクマネジメントの有効性はトップより中間管理職のやる気 ⑤ リスクマネジメントは顕在化リスク対応を迅速が最も大切	②-6 正
システムの高信頼化手法	169	システムの安全に関する説明 ① フールプルーフ ② フォールトアボイダンス ③ フォールトトレランス ④ 2 out of 3 ⑤ フェールソフト	③-25 誤
労働安全衛生法	144	安全管理者に関する説明 ア. 安全管理者を選任規準 イ. 安全管理者の増員、又は解任 ウ. 安全管理者は、選任すべき事項から14日以内に選任 エ. 安全管理者は300人以上の事業場では少なくとも一人は専任	③-26 誤数
労働安全衛生関連	218	OHSAS 18001:1999で定義されているもの ア. 安全 イ. 事故 ウ. リスク エ. 危険源 オ. 環境	③-28 正数
安全管理の理論	—	割られた窓理論の考え方 ① 階層分析法 ② ハインリッヒの法則 ③ HAZOP ④ THERP ⑤ ジップの法則	③-31 正
リスクコミュニケーション	140	リスクコミュニケーションにおける意思決定者の説明 ① ステークホルダーにポジティブ情報のみを提供 ② ステークホルダーとリスクに対する情報交換 ③ バイアスを取り除くため客観的な情報を提供 ④ ステークホルダーと目的、目標を共有 ⑤ ステークホルダーの意見で事業の見直しを検討	④-28 誤
未然防止技術	149	予防原則(Precautionary Principle)の説明 ① 未然防止(Preventive Principle) ② 予防原則(Precautionary Principle) ③ 予防保全(Preventive Maintenance)	⑤-32 正

## 6. 社会環境管理

青本目次 (該当ページ数)	出題キーワード	年度と形式
概要 172		
6.1 環境と社会システム 175	グリーン購入の説明 ① 循環型社会形成推進基本法で国、地方公共団体、事業者及び国民の責務 ② 発生抑制、再利用、再生利用、熱回収、新技術開発の5段階で廃棄物処理やリサイクルを行う ③ 環境政策とし費用負担方式、税制など経済的手法の導入、グリーン購入の推進 ④ 拡大生産者責任 ⑤ 3Rイニシアティブ	⑧-33 誤
	環境経営の説明、エコファンドの説明 (ア) 環境経営は新たな競争力の源泉で企業活動を行う (イ) 環境管理システムは、体系的運用する仕組み (ウ) 環境負荷や環境パフォーマンスを把握、評価が重要 (エ) エコアクション21は、大企業のために環境省が策定 (オ) 環境経営の外部評価がエコファンド	⑩-37 正数
6.1.1 持続可能な開発 176		
6.1.2 拡大生産者責任 177	拡大生産者責任の考え方(表 6-1) ① 生産者が製品のライフサイクルの影響最小化する責任 ② 生産者が設計による環境影響の物理的、経済的に責任 ③ 生産者が環境効率のため生産量を持続的に拡大する責任 ④ 発生源での削減や廃棄物の発生抑制等が主要な目標 ⑤ 生産者に製品の外部環境コストを内部化するシグナルを送る効果	④-33 誤
	拡大生産者責任、3Rの説明 ① 循環型社会形成推進基本法で国、地方公共団体、事業者及び国民の責務 ② 発生抑制、再利用、再生利用、熱回収、新技術開発の5段階で廃棄物処理やリサイクルを行う ③ 環境政策とし費用負担方式、税制など経済的手法の導入、グリーン購入の推進 ④ 拡大生産者責任 ⑤ 3Rイニシアティブ	⑧-33 誤
	拡大生産者責任の説明 ① 生産者が資源採取から製品廃棄後までの環境負荷の全責任を負う ② 目標は、発生源での抑制、廃棄物の発生抑制、より低コストな製品設計など ③ 効果とし、生産過程下流側へのプレッシャーや内部環境コストを外部化 ④ 政策手法として、製品の引き取り、デポジット、リファントなど ⑤ 日本では拡大生産者責任の概念を明記した法律はないが、個別リサイクル関連法で担保	⑨-33 正
	企業の環境活動に関する用語 ① 企業の社会的責任 ② 排出者責任 ③ 拡大生産者責任 ④ 環境会計 ⑤ グリーン契約(環境配慮契約)	⑫-36 誤
	環境に関する用語とその説明 ① EPR:生産者がその生産した製品が使用され、廃棄された後においても、当該製品の適正なリサイクルや処分について一定の責任を負うという考え方 ② ESCO事業:ビルや工場の二酸化炭素排出量の削減に必要な、技術・設備・人材・資金などを包括的に提供するサービスである ③ PPP:廃棄物を排出する事業者は、事業活動によって生じた産業廃棄物を自らの責任において処理しなければならないという考え方の基となった原則 ④ PRTR:有害性のある化学物質の環境への排出量及び廃棄物に含まれている移動量を登録して公表する仕組み ⑤ SRI:従来からの株式投資の尺度である企業の収益力、成長性等の判断に加え、各企業の人的資源への配慮、環境への配慮、利害関係者への配慮などの取組を評価し、投資選定を行う投資行動である	⑭-35 誤
6.1.3 環境経営 178	環境経営の説明 ① 環境負荷低減を積極的に経営に取り入れる ② 環境問題を社会貢献と源泉ととらえた企業活動 ③ 経済性と環境負荷低減の両面を考慮したアプローチが重要 ④ 環境マネジメントシステム、リサイクル促進、環境アカウンタビリティの実践など ⑤ 環境パフォーマンスの評価方法としエコファンド	⑤-33 誤

6.6.1 環境管理システム	206	環境管理システムの説明 ① レスポンシブル・ケア ② 環境アカウンタビリティ ③ 非財務アカウンタビリティ ④ 環境管理システム ⑤ 環境会計	①-5	正
		環境管理活動に関する記載 ① 環境アカウンタビリティ ② 環境報告書 ③ 環境マネジメントシステム ④ 環境活動評価プログラム(エコアクション21) ⑤ 環境会計	④-38	正
		環境管理システムの説明 (ア) 環境経営は新たな競争力の源泉で企業活動を行う (イ) 環境管理システムは、体系的運用する仕組み (ウ) 環境負荷や環境パフォーマンスを把握、評価が重要 (エ) エコアクション21は、大企業のために環境省が策定 (オ) 環境経営の外部評価がエコファンド	⑩-37	正数
6.6.2 環境活動評価プログラム	207	環境管理活動に関する記載 ① 環境アカウンタビリティ ② 環境報告書 ③ 環境マネジメントシステム ④ 環境活動評価プログラム(エコアクション21) ⑤ 環境会計	④-38	正
		環境パフォーマンス、エコアクション21の説明 (ア) 環境経営は新たな競争力の源泉で企業活動を行う (イ) 環境管理システムは、体系的運用する仕組み (ウ) 環境負荷や環境パフォーマンスを把握、評価が重要 (エ) エコアクション21は、大企業のために環境省が策定 (オ) 環境経営の外部評価がエコファンド	⑩-37	正数
6.6.3 環境会計	208	環境会計の説明 ① レスポンシブル・ケア ② 環境アカウンタビリティ ③ 非財務アカウンタビリティ ④ 環境管理システム ⑤ 環境会計	①-5	正
		環境管理活動に関する記載 ① 環境アカウンタビリティ ② 環境報告書 ③ 環境マネジメントシステム ④ 環境活動評価プログラム(エコアクション21) ⑤ 環境会計	④-38	正
		環境会計の説明 ① 環境会計の外部報告 ② 環境会計の内部管理 ③ 環境会計ガイドラインでの環境会計の構成要素 ④ 総エネルギー投入量は熱量換算で定量化 ⑤ 環境管理会計手法ワークブックの提案	⑥-39	誤
		企業の環境活動に関する用語 ① 企業の社会的責任 ② 排出者責任 ③ 拡大生産者責任 ④ 環境会計 ⑤ グリーン契約(環境配慮契約)	⑫-36	誤

## ●青本外出題

青本目次 (該当ページ数)	出題キーワード	年度と形式
説明責任	非財務アカウンタビリティの説明 ① レスポンシブル・ケア ② 環境アカウンタビリティ ③ 非財務アカウンタビリティ ④ 環境管理システム	①-5 正

		⑤ 環境会計	
環境価値を測定する方法		多目的評価法の説明 ① コンジョイント分析 ② 仮想評定法 ③ 多目的評価法 ④ ヘドニック価格法 ⑤ プロファイル法	②-13 正
環境法規制	—	バーゼル条約 ① 環境アカウンタビリティ ② バーゼル条約 ③ 汚染者負担の原則 ④ グリーン購入 ⑤ ライフサイクルアセスメント	②-14 正
リサイクル法	181 184	リサイクル法の施行年度 ① 自動車リサイクル法 ② 家電リサイクル法 ③ 建設リサイクル法 ④ 容器包装リサイクル法 ⑤ 食品リサイクル法	③-33 誤
環境法規制	195	環境基準の項目 ① 悪臭・大気汚染 ② 騒音・大気汚染 ③ 地盤沈下・景観 ④ 土壌汚染・水質汚濁 ⑤ 振動・日照障害	③-34 正
環境法規制	—	有害廃棄物の国際条約 ① ワシントン条約 ② バーゼル条約 ③ ヨハネスブルク条約 ④ リオデジャネイロ条約 ⑤ パリ条約	③-37 正
環境影響評価法	—	地方公共団体の環境影響評価条例 ① 第二種事業となりうる事業規模の要件 ② 対象事業の免許等の審査 ③ 地方公共団体の環境影響評価条例 ④ 事業計画は環境保全配慮の変更が生じない範囲で検討 ⑤ 都市計画での環境影響評価は、都市計画決定手続きと併せて行う	④-36 誤
環境基本法	180	環境基本法第2条において定義される公害 (いわゆる「典型7公害」) ① 日照障害、水質汚濁 ② 振動、電波障害 ③ 地盤沈下、悪臭 ④ 生態系破壊、大気汚染 ⑤ 低周波空気振動、土壌汚染	④-39 正
地球温暖化対策の推進に関する法律	—	温室効果ガスの定義 ① メタン ② 二酸化窒素 ③ 一酸化二窒素 ④ 二酸化炭素 ⑤ 六ふっ化硫黄	④-40 誤
環境の社会経済評価手法	—	環境の社会経済評価手法に関する記載 ① 池消失を受け入れ意志額等のアンケートでCVM評価 ② 環境再生案をプロファイルでアンケートによるコンジョイント法で評価 ③ 公園価値を移動経費等調査でトラベルコスト法により評価 ④ 並木整備を地価観察データでヘドニック価格法評価 ⑤ 日照障害を暖房費や照明費等を便益移転法評価	⑤-35 誤
環境マネジメントシステム規格	214	ISO 14001:2004の改定内容 ① 改定は品質マネジメントシステムとの整合化と要求事項の明確化 ② 法的及びその他の要求事項の順守が強化 ③ 適用範囲内の全ての環境側面を考慮 ④ 組織内の全てのサイト(事業所)を審査 ⑤ 間接的な環境側面への対応が徹底	⑤-38 誤

## 7. 総合技術監理と国際動向

青本目次 (該当ページ数)	出題キーワード	年度と形式
概要 211		
7.1 国際規格 213	(安)労働安全衛生マネジメントシステム ① IEEE 1394 ② ISO 9000 シリーズ ③ ISO 10006 ④ ISO/IEC 17799 ⑤ OHSAS 18000 シリーズ	⑤-28 正
7.1.1 ISO9000 シリーズ (品質マネジメントシステム) 214	(経)外注ソフトウェアの品質を確保 ① ISO9000審査登録を受けている業者に発注 ② 実績のある業者を選ぶ。 ③ 受入検査を厳格にする。 ④ 外注先技術者を自社技術者と同じ場所で作業 ⑤ 製品の仕様と要求事項を明確にする	①-10 正
	(経)ISO9001を構成している要求項目 ① 経営者の責任 ② 現場の責任 ③ 資源の運用管理 ④ 製品実現 ⑤ 測定、分析及び改善	⑥-1 誤
	(経)ISO9000ファミリー (ア) 品質管理及び品質保証に関する規格 (イ) 製品品質を保証するための要求事項を規定 (ウ) PDCAサイクルの適用 (エ) 顧客志向・顧客満足 (オ) 品質マネジメントのメリット	⑨-1 誤数
	(経)ISO9000の規格 ① ISO 9001は品質マネジメントシステムの規格 ② ISO 14001は環境マネジメントシステムの規格 ③ OHSAS 18001はプロジェクトマネジメントシステムの規格 ④ ISO/IEC 27001は情報セキュリティマネジメントシステムの規格 ⑤ ISO 50001はエネルギーマネジメントシステムにこの規格	⑬-8 誤
7.1.2 ISO10006 (プロジェクト・マネジメントにおける品質の指針) 215	(経)ISO10006の説明 ① プロジェクト・マネジメントにおける品質の指針 ② ISO9000と併せて活用 ③ プロセスの品質とプロジェクトの製品品質の2つの側面 ④ 品質マネジメントの経験 ⑤ 様々な複雑なプロジェクトに適用	⑧-2 誤
	(人) プロジェクト・マネジメント手法のプロセス ① 人的資源(または組織)、小集団活動に関するプロセス ② コスト、品質に関するプロセス ③ コミュニケーション、リスクに関するプロセス ④ スコープ(または範囲)、総合(または戦略)に関するプロセス ⑤ 資材調達、時間に関するプロセス	②-28 誤
7.1.3 ISO/IEC17799 (情報セキュリティ管理実施基準) 216	(経)ISO/IEC 27001の規格 ① ISO 9001は品質マネジメントシステムの規格 ② ISO 14001は環境マネジメントシステムの規格 ③ OHSAS 18001はプロジェクトマネジメントシステムの規格 ④ ISO/IEC 27001は情報セキュリティマネジメントシステムの規格 ⑤ ISO 50001はエネルギーマネジメントシステムにこの規格	⑬-8 誤
	IS Q27001:2006において情報セキュリティは「情報の「ア」、「イ」及び「ウ」を維持すること」と定義されている。	⑭-22 組
7.1.4 OHSAS18000 シリーズ (労働安全衛生マネジメントシステム) 218	(経)OHSAS 18001の規格 ① ISO 9001は品質マネジメントシステムの規格 ② ISO 14001は環境マネジメントシステムの規格 ③ OHSAS 18001はプロジェクトマネジメントシステムの規格 ④ ISO/IEC 27001は情報セキュリティマネジメントシステムの規格 ⑤ ISO 50001はエネルギーマネジメントシステムにこの規格	⑬-8 誤



## 参考ファイルの紹介

### PMP(☆虎)の 総監受験対策「総監 虎の巻シリーズ」の紹介

2014/12

PMP(☆虎)こと 上田活裕

ご紹介する「総監 虎の巻シリーズ」は、2004 年度に総監受験支援の HP を立ち上げてから、私が添削や講座を通じて得た知見を総監受験対策に必要な知識としてある程度、体系化を試みたものです。各シリーズで総監受験対策をすれば、必ず、「合格」に至る内容に作り上げたつもりです。

2005 年度から出版している書籍を全面的に構成しなおしました。

2005 年度版～2006 年度版は書籍と CD 版、2007 年度版は CD 版のみ、2008 年度以降は pdf ファイルで配布しています。

リンク先 ( <http://pmpstar.net/books/2005-2008books-CD.pdf> )

#### ◆「総監 虎の巻シリーズ(1)」「総監受験 ガイドブック 2015 年度版」

発刊予定 平成 26 年 12 月下旬 価格 ¥2,500 (A4版 260 ページ)

サンプル pdf ( [http://pmpstar.net/books/soukan\\_guide2015\\_sample.pdf](http://pmpstar.net/books/soukan_guide2015_sample.pdf) )

- 試験制度の改正に伴う「経歴票」の書き方など内容を充実させました。
- まず、総監受験を目指して、「総合技術監理部門の技術体系(通称、青本)」を入手しても、受験対策として、何をどう取り組んだらよいか悩んでいませんか？
- 技術士 総合技術監理部門を目指す方に、総監受験対策の「肝」をより理解しやすく解説した本です。
- 総監を目指すそのような方を対象に、「総監ってなんだ」という総監の全体像の理解を目的に構成しています。この書籍は 2008 年度～2014 年度に行った「総監受験講座」の講義資料や講座の経験を生かしています。

第 1 章は 試験対策のアウトライン

- ・試験制度の改正に伴う「経歴票」の作成方法を追記しました。
- ・総監としての「経歴票」の事例 20 例と作成法として「業務分析シート」と活用事例を紹介しています。
- ・この「業務分析シート」は、記述試験のみならず、口頭試験対策としても役立ちます。

第 2 章は 「総合技術監理部門の技術体系(通称、青本)」の概要解説

解説にはマインド・マップを多く取り入れ、青本の概要、総監をよりわかりやすく解説しています。「木」を見るより「森」を見るのが大切です。

第 3 章は 択一問題の対策と 2012 から 2014 年度の過去問3年の解説

第 4 章は 記述問題の対策と 2012 から 2014 年度の過去問3年の解説

付録資料として、技術士法、技術士倫理規定、技術士倫理綱領、技術士 CPD、技術士ビジョン21、技術士プロフェッショナル宣言などで構成しています。

- 総監筆記試験の受験に当たって、「総監合格への手がかりになる」ように、青本の全体像の解説と経歴票の書き方、業務経験を総監として洗い出す「業務分析シート」の事例と受験対策で構成したA4版 260 ページの書籍です。

#### ◆「総監 虎の巻シリーズ(2)」「青本の徹底理解 2015 年度版」(2012 年度版以降同じです)

発刊予定 平成 26 年 12 月下旬 価格 ¥3,500 (A4 版 336ページ)

サンプル pdf ( [http://pmpstar.net/books/soukan\\_aohon\\_rikai2015\\_sample.pdf](http://pmpstar.net/books/soukan_aohon_rikai2015_sample.pdf) ) (2012 年度版以降同じです)

- A4版 334 ページの書籍で、青本の解説部分が約 180 ページ、キーワード集が約 120 ページです。
- 「総合技術監理部門の技術体系(通称、青本)」をより読みやすく理解しやすいように構成しなおしました。総監として要求される能力、資質など、また 5 つの管理の内容に対し、表形式を多用して判りやすくしています。

また、従来の書籍で紙面の関係で省略していた図表や計算式なども記載しました。

これで、ベースである「青本を参照する必要性」がなくなりました。

さらに、従来の書籍「総監虎の巻」のキーワード集をこちらの書籍に統合しました。

- この書籍一冊で、「総合技術監理部門の技術体系」の理解と択一問題対策に対応できる構成としました。「総監的視点」をより理解しやすく、択一問題集を解く際に併用して使えば効果的な一冊に構成しています。

### ◆ 「総監 虎の巻シリーズ(3)」 「総監 択一問題対策本 2015 年度版」

発刊予定 平成 26 年 12 月下旬 価格 ¥3,500 (A4 版 396 ページ)  
 サンプル pdf ( [http://pmpstar.net/books/soukan\\_takuitsu2015\\_sample.pdf](http://pmpstar.net/books/soukan_takuitsu2015_sample.pdf) ) (未アップ)

●そのものずばり、総監択一問題対策本です。

- ・択一問題に対するアプローチの仕方である「PMP(☆虎)の脳-how」と
- ・過去問の出題形式の分析

●5つの管理分野で整理していますので、分野ごとに集中的に学習できることを目指しています。

- ・5つの管理毎に整理した分野別過去問集(2001~2014年度) 525問
    - + 講座仲間が作成した 440問
    - + 仲間のヤマトさん作成の 150問
    - + 追加計算問題 15問
- のトータル 1130問が掲載してあります。

●択一問題対策の基本は多くの問題を解くことで、理解するのではなく記憶することです。

過去の受講生の方で最高はこの問題集を3回やった方がおられます。  
 当然ながら、択一問題は、楽々クリアし、総監に合格されました。  
 ただし、3回も解くという意欲と時間を確保された成果でもあります。

「総監 択一問題ヒストグラム 2015 年度版」、「総監 択一問題エクセルファイル 2015 年度版」も活用し学習ください。

### ◆ 「総監 虎の巻シリーズ(4)」 「総監 記述問題対策本 2015 年度版」

発刊予定 平成 26 年 12 月下旬 価格 ¥3,500 (A4 版 484 ページ)  
 サンプル pdf ( [http://pmpstar.net/books/soukan\\_kijutu2015\\_sample.pdf](http://pmpstar.net/books/soukan_kijutu2015_sample.pdf) ) (未アップ)

●そのものずばり、総監 記述論文問題対策本です。

●過去問とその解説と合格復元論文を掲載し、問題へのアプローチを理解できる内容としています。

大きくは出題形式が変わった 2005 年度~2014 年度と、2001 年度~2004 年度に分けて解説しています。  
 また、筆記試験合格論文も掲載しています。

2013 年度の事例からは論文添削の Before After の事例を掲載しています。

●論文で大切なことは「総監の頭で考える」ことです。そのアプローチの仕方を解説しています。

余談ですが、2007 年度、2011 年度の講座で行った BCP に関する模擬問題が本番で出題され、私の受講生はこれで落ちたらと青くなったそうです。

なお、記述試験講座も計画しています。

### ◆ 「総監 虎の巻シリーズ(5)」 「総監 口頭試験対策 2015 年度版」

発刊予定 平成 27 年 4 月中旬 価格 ¥3,500 (A4 版 173 ページ程度? 作成中です。)  
 サンプル pdf ( [http://pmpstar.net/books/soukan\\_koutou2015\\_sample.pdf](http://pmpstar.net/books/soukan_koutou2015_sample.pdf) ) 今後アップ予定です。

●試験制度の改正に伴い、「技術的体験論文」が廃止となりましたので改訂中です。

●口頭試験では「経歴票」とともに「記述試験の論文」から諮問されます。

口頭試験でどのように諮問されるか、  
 どのように諮問されたいかを考えながら  
 推敲して、口頭試験対策を行い、必ず合格する必要があります。

●口頭試験での質問事例集や、口頭試験復元事例も掲載しています。

なお、模擬口頭試験講座も計画しています。

### ◆ 「総監 虎の巻シリーズ(6)」 「総監 択一問題ヒストグラム 2015 年度版」

発刊予定 平成 26 年 12 月下旬 価格 ¥1,200 (A4 版 84 ページ) 2014 年度からの新規ファイルです  
 サンプル pdf ( [http://pmpstar.net/books/soukan\\_takuitsu2\\_2015\\_sample.pdf](http://pmpstar.net/books/soukan_takuitsu2_2015_sample.pdf) )

●そのものずばり、総監択一問題の出題箇所をより見やすく、設問のキーワードで纏めた対策本です。

- ・青本の目次に沿って、過去問の設問ごとにキーワード、キーセンテンスを纏めました。
- ・出題頻度の高いキーワードが判ります。
- ・自分の強み、弱みが一覧できます。

●択一問題対策の基本は多くの問題を解くことで、理解するのではなく記憶することです。

●限られた時間で効率よく、学習しましょう！！

「総監 択一問題対策本 2015 年度版」、「総監 択一問題エクセルファイル 2015 年度版」も活用し学習ください。

### ◆ 「総監 虎の巻シリーズ(7)」 「総監 択一問題エクセルファイル 2015 年度版」

発刊予定 平成 26 年 12 月下旬 価格 ¥1,200 (価格改定しました) 現在作成中  
 使用方法是 ( [http://pmpstar.net/books/book2010/takuitsu\\_excel2010.pdf](http://pmpstar.net/books/book2010/takuitsu_excel2010.pdf) )  
 サンプルファイルはアップしていません。

●そのものずばり、総監択一問題をエクセルファイルで行えるようにしたファイルです。

- ・技術士 総合技術監理部門の択一問題 2001~2014 の全 525 問を 5 つの管理分野別に整理して、フリーソフトである【簡単択一式問題集作成ソフト For EXCEL】で過去問を行えるようにしました。
- ・主として過去問を印刷物で行った後、2 回目以降の学習で効率よく過去問を行うために活用してください。
- ・フリーソフトを利用しているため、図表や計算問題、解説の長い問題は、使い勝手が悪いことをご承知ください。

「総監 択一問題対策本 2015 年度版」、「総監 択一問題ヒストグラム 2015 年度版」も活用し学習ください。

### ◆ 「総監 虎の巻シリーズ(8)」 「総監 合格音声ファイル」

販売中 平成 23 年 3 月 価格 ¥1,500 (価格改定しました) (改訂予定はありません)  
 2 時間弱(1 時間 48 分)、101MB の mp3 形式の音声ファイルです。  
 サンプル音声ファイル(7 分 35 秒) [http://pmpstar.net/aohonmp3/soukan\\_guide\\_sample.mp3](http://pmpstar.net/aohonmp3/soukan_guide_sample.mp3)

●そのものずばり、講座で受講生に指導した内容を音声ファイルにしました。

本音声ファイルで、総監に対する理解をより深めて総監突破を目指してください。

本音声ファイルの構成は、筆記試験を突破するために必要な解説として、次の 4 つで構成されています。

もっとも重要である 1. 総監的視点を身に付ける

それと、2. 総監技術士に相応しい経歴票、3. 択一問題対策、4. 記述試験対策の 4 つです。

全体として、100MB 以下で、隙間時間でも聞くことができるように、2 時間程度に収まるようにしました。

●通勤中でも繰り返し IC レコーダーでの学習が可能です。  
 読むより聞くほうが早いことは明らかです。

1. 「総監的視点を身に付ける」の解説内容は「技術士制度における総合技術監理部門の技術体系」をベースに「総監虎の巻 シリーズ」での大切な個所の解説を加えたものですので、該当する総監虎の巻を見ながら解説を聞いてください。

2. 総監士に相応しい経歴票、3. 択一問題対策、4. 記述試験対策については、総監虎の巻シリーズに分冊して解説していますので、本音声ファイルでは、重要な留意点のみ解説するのにとどめていますので、別途、総監虎の巻シリーズを参照して下さい。

なお、この音声ファイルはテキストを音声読み上げソフトで作成していますが、高価なソフトで使用されているような音声記号などを使っていませんので、日本語としての抑揚になっていない箇所があることをお断りしておきます。

## ◆ 「総監 虎の巻シリーズ(9)」 「総監 青本読み上げ音声ファイル」

販売中 平成23年2月 価格 ¥2,000 (価格改定しました) (改訂予定はありません)  
 ファイルリスト PDF ファイル(全部で 339MB 31 ファイル) [http://pmpstar.net/aohonmp3/aohon\\_mp3list.pdf](http://pmpstar.net/aohonmp3/aohon_mp3list.pdf)

### ● 「総合技術監理部門の技術体系(第2版)」の1章から7章までを mp3 形式の音声ファイルにしました。

サンプルファイル 2.1 事業企画と事業計画 <http://pmpstar.net/aohonmp3/2.1.mp3>

とっつきにくい青本を読むことは辛いことです。  
 理解して読もうとするから理解できなければ余計に苦痛になります。

耳から情報をインプットとする。  
 しかも読み上げ速度を早くすれば、より短い時間で全体を把握できる。  
 「自分で読まなくても読んでくれる」

これは効果があります。ただ聞いているだけでいいのですから、  
 さらに、「青本」を見ながら聞くと、早く文字を読むことができます。  
 目と耳から情報が入ってきます。

### ● 本ファイルは青本の各節ごとにファイルを構成

青本の各節ごとにファイルを構成していますので、学習したい箇所を集中的に行うことができます。  
 本ファイルはテキストを音声再生ソフトで読み上げていますので、読み上げにおける「間」は実現できません。  
 「間」というものは初めて聞く時には必要かもしれませんが、  
 しかし、語学学習ではないので、繰り返して学習する際にも「間」は重要ではありません。

「繰り返して読むよりも繰り返して聞くほうが早い」  
 「どこでも学習できる」

しかも、本音声ファイルは、通常の約1.5倍速の読み上げ速度にしていますので、時間短縮できます。  
 初めはちょっと早いと感じるかもしれませんが、十分聞き取れる再生速度です。  
 慣れてくれば、再生速度を上げても十分理解できるはずです。

## ◆ 「総監 虎の巻シリーズ(10)」 「総監 講座ビデオファイル」

販売中 平成23年5月 価格 ¥2,500 (価格改定しました) (改訂予定はありません)  
 紹介ビデオは [http://pmpstar.net/video/soukan\\_kouza2011sample.mp4](http://pmpstar.net/video/soukan_kouza2011sample.mp4)

### ● 2011/04/17 に行った総監受験講座のビデオを mp4 形式のビデオファイルにしました。

講座テキストは「総監虎の巻 総監受験ガイドブック。」と「青本」です。

1日、10:30 から 17:30 の約6時間の講義を編集して、3部構成に纏めました。

講義内容から自己紹介や余談話、微妙な講義での間などをカットして、  
 さらに簡単なテロップをつけて講義内容を判りやすくしました。

mp4ファイルは3つあります。

午前の部 09\_soukan\_kouza2011AM.mp4 (1.1GB 1時間 10分)

午後の部 09\_soukan\_kouza2011PM1.mp4 (1.0GB 1時間 03分)

09\_soukan\_kouza2011PM2.mp4 (0.9GB 1時間 54分)

午前の部は、青本第1章から「総監とは？」を読み落としがちな「総監技術士としてあるべき姿」を解説しています。

午後の部は、「総監虎の巻 総監受験ガイドブック。」から、総監試験の概要、択一問題対策と記述問題対策が一つのファイル、そして、もう一つが「5つの管理の概要」について解説しています。

全て、「総監試験を突破する」ためで、同様の書籍、ファイルは販売されていないと思います。

なお、書店では販売していません。

## あ と が き

総監受験支援のHP「総監虎の巻」は2004年から立ち上げています。

このページの資料のほとんどは、私が総監受験時のものが基礎となっています。

筆者が技術士総合技術監理部門(総監)を2002年に受験し合格後、2003年佐口氏の「技術士受験講座」から「技術の杜 ハヤブサネット(杜ハヤ)」が立ち上がったので入会しました。杜ハヤの掲示板で2003年度の総監受験対策の話題から、筆者が受験時作成した資料をメンバーに配布したところ、素晴らしい資料だとの言葉をいただき、出版してはという話に発展しました。その後、その資料をまとめ直し、ネット上で公開すべく「技術士 総合技術監理部門資格取得支援」のページを作成し、APECさん(ホームページ技術士受験を応援するページ=今はsukiyaki塾の運営者)のエリアをお借りしてメンバーに公開し、2004年に自前エリアを確保し一般公開するに至りました。

また、2004年には、杜ハヤの事業として技術士第二次試験経験論文添削をボランティアで行う「虎の穴」が開始され、筆者も添削講師として参加させていただきました。その後、ホームページの略称を「総監虎の巻」として、コンテンツの更新を行っていましたが、そのページを閲覧していた出版会社の方からメールを戴き、打ち合わせし、出版に至りました。

総監受験講座は2006年度から行っています。

最初は自宅マンションの集会室で阪神間の技術士仲間(NEWZといひます。この仲間たちはブログでも有名な方が多いです)を対象にface to faceで、2週間に1回、土曜日の午前10時から午後5時まで行いました。

もともとHPでの資料がありましたから基本資料はありましたが、私が総監合格後、得た知見を紹介する意味でも、新たな取り組みをしました。

ひとつはグループ学習。競い合い、助け合うことの仲間がいればモチベーション維持できます。

択一問題対策は、参加者の合意の元、各自に次回までの課題を与えました。5つの管理の担当を決め、各自、担当の管理分野を読み込み、問題を作ること。そして作成した問題を仲間に公開し、次の担当者は同じ管理分野でも違う問題を作ること。競い合う仲間がいて足を引っ張れない状態です。択一問題は青本を読み込み理解するというより覚えるしかありません。

特に論文は指導できますが、択一問題対策は自分がやるしかありませんし、指導しようがありません。ただし、択一問題にどう取り組むかという私の過去の受験歴で得たノウハウ、「PMP(☆虎)の脳-how」を紹介しました。

論文対策は、当時は筆記試験の論文の出題形式が決まっていたから、論文については作成してきたものをその場で添削して、その日のうちに修正版を作成する。

このグループで行った講義資料をリメイクしたり、リフォームしたものが、今の私の講座資料となっています。

その後、2006年からskypeを利用したvoice to voiceインターネット講座を行っています。北は北海道から南は鹿児島まで多くの地方の方が参加されました。私は阪神間に住んでいますが、大阪の大きな書店でも技術士受験関連の書籍は少ないです。社会的認知度が少ないマイナーな資格なのでしょうか?! 阪神間の大型書店でもそうですから地方の方にとって、書籍購入はネット主体になっているのではないのでしょうか? 同様に地方の方にとって講座に受講したくても、通える距離圏で行っている講座は皆無に等しいのではないのでしょうか?

そんな背景があるのかもしれませんが私のskype講座はほとんど地方の方です。今でもskypeで会話したり、チャットしたりしています。この講座の仲間もブログで有名な方がおおいです。

この講座を通じて多くの方と知り合い、多くの知見を得ています。

Skype講座も有効ですが、やはりface to faceのほうがいい面もあります。この講座の主旨は、「総監マインド」、「総監的視点」とは何かを直接伝えたかったからです。

そのほか、APECさんの講座やSukiyaki塾で指導するノウハウを学ばせていただいています。

「教えることは教わること」を基本に今後も総監受験支援活動を続けたいと思っています。

総監の口頭試験講座も終わり、受講生の方から復元口頭試験記録も送られてくる予定で、わくわくして3月の合格発表を受講生の方と待っています。

平成26年12月20日

PMP(☆虎)こと 上田 活裕

著者紹介

上田 活裕 (うへだ かつひろ)

工学修士

PMP

技術士(総合技術監理部門/建設部門)、

1級建築士

溶接管理技術者 WES 特別級 国際溶接技術者 IWE

コンクリート診断士 ほか

大学院終了後、ゼネコンに勤務し、建築構造設計に従事

「技術の杜 ハヤブサネット」(略称:杜ハヤ)の会員。

2004 年から、技術士総合技術監理部門受験指導として、論文添削、講座などの活動を展開。

総監受験のホームページ 技術士 総合技術監理部門資格取得支援の「総監虎の巻」を運営。

総監受験の書籍 「総監虎の巻シリーズ」を出版。

総監受験の講座 「総監虎の穴」を運営。

技術士 総合技術監理部門受験支援のページ 「総監 虎の巻」 [http://pmpstar.net/PE\\_GTPM/](http://pmpstar.net/PE_GTPM/)



ホームページ「PMP(★虎)のサイト [pmpstar.net](http://pmpstar.net/)」 <http://pmpstar.net/>



本書の内容の一部あるいは全部を無断で転載・複写複製することを禁じます。